

平成30年度 業務棚卸評価シート

No.	25	担当部課名称	総務部市民自治推進課
事務事業名	春の市民まつり開催事業		
見直しのタイトル	開催日の職員従事者数の削減		
添付資料 有無	無		

1 現状における課題

大岡越前祭や産業フェアと同日開催し、春の定例行事として定着している。市民活動団体の活動促進の場となっているほか、市の施策を推進するための企画を盛り込んだり、市の取り組みの情報発信の場ともなっている。

実施主体は実行委員会であり、ボランティアの協力を得て、本課職員がサポートし、当日の運営をしている。

平成27年度までは、本課職員ほぼ全員が出勤していたが、28年度は30%前後の削減を試みた。29年度は、実行委員会との協力体制の強化、まつりの安定した運営のためにほぼ全員出勤したが、今後は実行委員会との連携、事業の内容・レベルを維持しながらもより効率的に運営していくことが必要であると考え。

2 業務改善の趣旨及び具体的内容

職員の働き方の見直し、事業実施主体の最適化等を推進するため、これまで以上のボランティアの効果的な活用、実行委員会と職員の役割分担を改めて明確化する。

目標として、職員の出勤体制について、全職員数に対し4分の3（3/4）以下の出勤数とする。

3 改善により期待できる効果

実行委員会の主体的な活動の促進に繋がるとともに、職員の休日勤務の削減、職員自身のワークライフバランスの充実に繋がる。

4 実施スケジュール（概要）

まつり開催に向けた諸準備を進める中で、効率・効果的な実施体制を構築していく。

5 実施結果の振り返り

本部テント、実行委員会企画スペース等において、業務内容を鑑みたうえで、可能な限り正規職員の配置数を減らし、その分、ボランティアスタッフを増員することで対応した。その結果、業務当日の正規職員の出勤数が4分の3以下（15名中11名）となった。

平成30年度 業務棚卸評価シート

No.	26	担当部課名称	総務部市民自治推進課
事務事業名	なんでも夜市開催事業		
見直しのタイトル	開催日の職員従事者数の削減		
添付資料 有無	無		

1 現状における課題

夏の夜の祭典として、環境に配慮しながら市民に「ふれあいの場」と「楽しみ」を提供し、市民が賑やかな夏の思い出を共有するイベントとして定着している。
実施主体は実行委員会であり、ボランティアの協力を得て、本課職員がサポートし、当日の運営をしている。
平成27年度までは、本課職員ほぼ全員が出勤していたが、28年度は30%前後の削減を試みた。29年度は、実行委員会との協力体制の強化、まつりの安定した運営のためにほぼ全員出勤したが、今後は実行委員会との連携、事業の内容・レベルを維持しながらもより効率的に運営していくことが必要であると考えます。

2 業務改善の趣旨及び具体的内容

職員の働き方の見直し、事業実施主体の最適化等を推進するため、これまで以上のボランティアの効果的な活用、実行委員会と職員の役割分担を改めて明確化する。
目標として、職員の出勤体制について、全職員数に対し4分の3（3/4）以下の出勤数とする。

3 改善により期待できる効果

実行委員会の主体的な活動の促進に繋がるとともに、職員の休日勤務の削減、職員自身のワークライフバランスの充実に繋がる。

4 実施スケジュール（概要）

事業の開催に向けた諸準備を進める中で、効率・効果的な実施体制を構築していく。

5 実施結果の振り返り

本部テント、実行委員会企画スペース等において、業務内容を鑑みたうえで、可能な限り正規職員の配置数を減らし、その分、ボランティアスタッフを増員することで対応した。その結果、業務当日の正規職員の出勤数が4分の3以下（16名中10名）となった。

平成30年度 業務棚卸評価シート

No.	27	担当部課名称	総務部市民自治推進課
事務事業名	市民ふれあいまつり開催事業		
見直しのタイトル	開催日の職員従事者数の削減		
添付資料 有無	無		

1 現状における課題

本まつりは、市民参加型のまつりとして34回目を迎え、市民のレクリエーション、コミュニケーションの場として定着している。
実施主体は実行委員会であり、ボランティアの協力を得て、本課職員がサポートし、当日の運営をしている。
平成27年度までは、本課職員ほぼ全員が出勤していたが、28年度は30%前後の削減を試みた。29年度は、実行委員会との協力体制の強化、まつりの安定した運営のためにほぼ全員出勤したが、今後は実行委員会との連携、事業の内容・レベルを維持しながらもより効率的に運営していくことが必要であると考えます。

2 業務改善の趣旨及び具体的内容

職員の働き方の見直し、事業実施主体の最適化等を推進するため、これまで以上のボランティアの効果的な活用、実行委員会と職員の役割分担を改めて明確化する。
目標として、職員の出勤体制について、全職員数に対し4分の3（3/4）以下の出勤数とする。

3 改善により期待できる効果

実行委員会の主体的な活動の促進に繋がるとともに、職員の休日勤務の削減、職員自身のワークライフバランスの充実に繋がる。

4 実施スケジュール（概要）

まつり開催に向けた諸準備を進める中で、効率・効果的な実施体制を構築していく。

5 実施結果の振り返り

本部テント、実行委員会企画スペース等において、業務内容を鑑みたうえで、可能な限り正規職員の配置数を減らし、その分、ボランティアスタッフを増員することで対応した。その結果、業務当日の正規職員の出勤数が4分の3以下（16名中10名）となった。